

# 土・まち・みどり

通信 第54号

2014. 2. 20

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS ◆晩秋のつどい ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の歴史を訪ねて ◆フラワーアレンジメント講習会  
◆活動報告 ◆会からのお知らせ

## 晩秋のつどいレポート

今回は新装なった「シェア奥沢」で初めて、「晩秋のつどい」を開催しました。広さは収容人員最大50名程度と小規模のスペースですが、庭の緑が十分目に入る、和室を改装した板の間に、ゆったりとお話を聞き交流ができる場所です。お話は井山ゴンジさんの「自然農的生き方」、奥沢コンサートは、佐川文絵さんのピアノ、加藤夕葵さんのフルート演奏で、和気あいあいのつどいとなりました。

### お話し

(自然農的生き方)

井山ゴンジさんは、総面積 1,000 m<sup>2</sup> の休耕地を利用して、無農薬・無化学肥料・自家採種・不耕起栽培による、誰でも取り組める市民参加型の農業を地域に住む人々に解放し、作付けから収穫までの都市型農ライフを楽しむために、「せたがや自然農実践倶楽部」を2009年4月に設立、代表となられた。

自然農では、草(雑草)と作物が根を張る表面の土の中では、虫や微生物の働きで生育に適した環境が形成され、草との共存の中で強い作物が育つという特質を活かしている。耕すと空気が過剰に入り、却って土表面の生物の環境が壊されてしまうとのこと。耕さずに土の形成と作物株を育成するため、大豆や陸稲では3、4年かかる。ワラ等の茎や葉は表面に敷くことにより、肥料や鳥よけにもなるらしく、経験やノウハウが大切のようである。

ゴンジさんはユニークな経歴の持ち主である。小中学生までは、自然児、スポーツマン、それからは

ガリ勉して、大企業に入り猛烈サラリーマンであった。しかしこれで良いのかと悩む。型にはまった、求められる生き方、本当に自分が自由の身か、疑問を抱き、長年勤めた会社を辞め、仏教に入り修行生活を送り悟りを得、自然農に行きついた。

氏によれば、存在するもの自身が全て主人公であるということである。虫も草も野菜も皆主人公、作物も自分も仲間も、皆主人公であり、それぞれやりたいことをやって、夢を実現することが大切である。

これからは、自然農の喜びを分かち合い、人それぞれの夢を実現する、そして自給自足の助け合いにより、夢の実現に向かって、楽しく生きようと呼びかけておられます。

ゴンジさんは、サラリーマン人生という現実的な社会経験を経て、悟りを開き、実践的な地域交流の活動をリードする陽気なお坊さんという感じの方でした。(鈴木)

### 奥沢コンサート

(ピアノ、フルート演奏)

今回はお話の後にふさわしく、シェア奥沢という和風の会場にマッチした、二人の女性による室内楽の演奏でした。

ピアノ演奏の佐川文絵さんは、東邦音楽短期大学器楽科ピアノ専攻卒業後、ピアノ講師をしながら、自作曲や共演で演奏活動を行っています。

数年前にがんにかかり克服してからは、ものの見方も変わり、自然に生かされていることに感謝して、思いつくままに音を作れるようになり、音も変わったと言われるようになったそうです。

加藤夕葵さんは、武蔵野音楽大学器楽科フルート

専攻卒業後、クラシックやポップス等、演奏活動と後進の指導にあたっています。

演奏された曲は、佐川さんの作曲主体に以下の曲でした。・光のほうへ・やがて・この道・道、つづく・霧の夢・フィンランドワルツ(ピッコロは加藤さん演奏)・スカボロフェア・クリスマスソング・花つぶ・やさしみ・この素晴らしき世界(アンコール)でした。

演奏の印象は、しっとりした澄んだ音色で、山好きの私には、緑豊かな谷合の路を、溪流の音を聞きながら歩いているような安らぎを感じました。

(鈴木)

# おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

## 「昔の九品仏川」

奥沢2丁目 遠藤 肇

私は奥沢2丁目15番地で生まれ育った。既に七十有余年が過ぎ去った。

初めてのこの街との係わりは、私が産声を上げた後の母の言葉である。「産後の床から立ち上げられるようになって廊下から外を見たらケヤキの若葉が綺麗だった」

家の周囲には亭々と聳えるケヤキが沢山あったのだ。一本のケヤキを守る事が「土と緑」の活動の原点と伺っている。

街との係わりは高校大学サラリーマンと年を重ねるに連れて希薄になって行った。拘束のきつい給料取りの生活を終えてこの十年、街の良さに気づき、住まう事に感謝している。

子供の頃は通りのどのお宅にも子供がいた。学校が終わると通りに出て皆で遊んだ。今はどのお宅にも老人がいて、道に出て来るのは買い物の時ぐらい。これからは、隣は何をする人ぞ、とおせっかいの声を掛け合いながら暮らす事の大切さを感じている。

昭和四十年代は、家々角々に目印になる様な巨木銘木が有り存在感を示していた。

我が子を育てる様になって2丁目公園は良く利用させてもらった。公園デビューも娘はここで果たした。その頃は既に九品仏川が埋め立てられ、岸に有った桜も沢山切り倒された。お歯黒トンボが好きだったが、消えた。

九品仏川には八幡中学の前の池から緑が丘まで沢山の橋が掛かっていた。小学校の頃、四つ五つ先輩に連れられてよく川岸を歩いた。その先輩は物静かな人で、何故私を連れ歩いてくれたか分からないが、私も大人しく付いて行った。先輩は橋の名前を覚えると言う。今はすっかり忘れてしまったが、タニハタバシとか言って一つ一つ橋の名前を言いながら緑が丘の大学の方まで歩いた。いつも季節は秋だった様な気がするのはなぜだろう。ムクドリの大群が、立源寺の森の向こうに、移り変わる砂絵を描きながら飛んでいた。

九品仏川の緑道に再び水が戻れば良いが、と橋の事を思い出しながら考えている。

## 「久しぶりの奥沢」

奥沢2丁目 市橋 由利

住み慣れた奥沢を1978年に後にしNYに渡ってから早くも35年、母の怪我、病気を機に懐かしいこの町に戻って来ました。世代交代もあるもの、ご近所はお馴染みの皆さん、又昔同様“ちゃん”付けで暖かく迎えていただいています。

実際に家の管理をするはめになると、実家に遊びに来ていたのとは大違い、逆カルチャーショックあり、浦島現象ありでエピソードには事欠かない新鮮な毎日です。

NYのマンハッタン島には基本的に一軒家は存在しません。ブラウンストーンとかタウンハウスと呼ばれる3-4階建てのものがありますが、隣の家と壁を共有する形でせいぜい猫の額のような裏庭があったり、と言った具合です。多くの人は高層のコンドとかコープと呼ばれるアパート住まいです。ですからわずかでも庭付きの一軒家は有難く、そこから醸し出される季節感には退屈する暇がありません。あと一つ、殊の外感激しているのは、洗濯物を太陽の下で干せること。日本に住まわれている皆さんには当然至極のことですが。

日本は確か温帯と習ったはず。生活してみると亜熱帯の間違いではと首を傾げる事しきりです。時差で眠れない早朝4時、“ねじまき鳥”？のけたたましい金切り声とせわしく飛び交う羽音が聞こえ、目を閉じると浮かぶ景色はジャングル。電線には野生に返りまるまると肥えたインコがずらり10匹。原色とりどりの野鳥の群がるインドのよう。生活力に溢れ、時に圧倒されます。

奥沢は交通の便も良く、自由が丘のようなヒップな街に隣接する割には、飾り気がなく、おっとりとしたホームタウンです。緑が多いことも関係あるのでしょうか。先日近所の大木が鬱蒼と茂る地所がすっかり刈り上げられ更地になり、周りの景観にあった深い陰影が消え、啞然とした覚えがあります。年輪を重ねた木には特別なオーラがあり、大切にしてくきたいものです。土とみどりを守る会の努力に感謝しながら、筆を置きたいと思います。

## 奥沢の歴史を訪ねてVII

### 奥沢周辺の城址と地名の謎①

奥沢城址と鷺草については色々書いてきたので、今回は少し当時の周辺の状況に目を向けてみたい。

まず、住所的には『武蔵野国荏原郡菅刈の荘世田谷』と呼ばれていたようである。菅刈のしょうというのはそのように記録はされているが、どのような内容なのかはよく分かっていない。地名としては必要無いと思われるが、荘園などの名残りかもしれないと思っている。当時の武蔵の国では大和・奈良・平安時代よりの呼び方が続いていた。多摩郡、豊島郡、荏原郡が大きく、後は小さい郡が沢山あった。現在もあちこちにその名を残している。世田谷というの「瀬田の谷」からきたと伝えられている。

その他古地名は多いが、当然各集落毎に呼び名があったであろうと考えられる。ただ、必ずしも全てが残るわけではないし、名がついた時代も長きにわたっている。詳しくは『世田谷の古地名（上・下）』を読むとよい（各図書館に在）が、主として江戸時代の地名である。室町以前の記録は少なくなる。

鷺草関係では小字（コザ）名として奥沢村に鷺の谷が知られているが、伝説は九品仏川（旧名丑川ウカ、古くは逆川カガリ）をはさんで、奥沢側と目黒区衾村に伝わっている。大字谷畑（或いは小字谷畑）小字鷺草にも伝えられていた。衾村の水田にも鷺草が咲いていたようである。中心は吉良家の菩提寺の一つ東光寺で、都立大学駅近く、旧都立大学法経学部跡地に接している。目黒区側の伝説については、『通俗荏原風土記稿』に書いてあるが、現在は目黒区の『郷土の文学資料』に載せられているらしい。『目黒区大観（村上三郎編著昭和10年8月16日発行目黒区大観刊行会）』に詳しいが私はまだ目にしていない。奥沢城址と鷺草が風景資産に選定されたら目黒区の図書館で探してみたい。

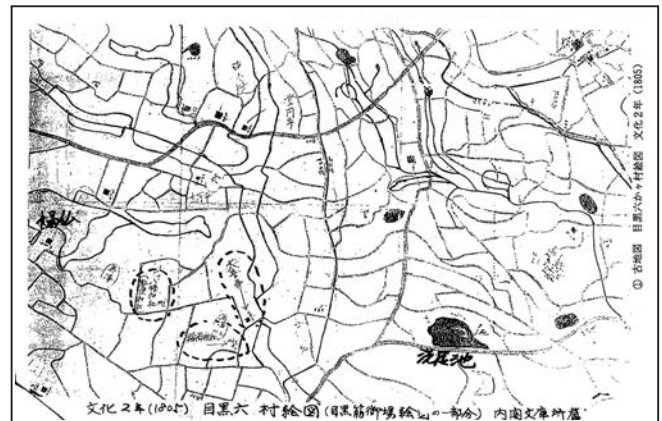
調べて行く中、面白い発見があったが、未だ確認は取れていない。それは奥沢中学校と大音寺の山は小字「開平」又は「朝鮮丸」と呼ばれている。

「朝鮮丸」については語源が2説あり、「開平」の語源は全く分かっていない。ところで、大岡山は昔旧衾村の平根タラネに属し、4小字から成っていた。目黒区全体が品川郵便局の集配区域であった当時の小字表に「碑衾村・衾・大官山」と出ていて、「林カヤマ」と書かれている。大岡山は昔「林カヤマ」と呼ばれて

（私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介します。）

いたらしい。旧衾村を貫流し、「平根」から世田谷区と大田区の間を呑川が流れ、細長く突入している低地がある。大音寺先では敷地の中を区界が走っているように見えるので、かなり入り組んでいる。同じように呑川駒沢支流にも八雲と深沢の境界が近い場所がある。「平根」の小字名は「平南大岡山」「平北大岡山」「平鐵飛」「平中里」であり、呑川に接している大音寺山（大音寺砦があったとも伝えられている）を「平根」の農民が開拓していったとすると「開平」という言葉が生まれても不思議はない。だが、低地ではないし。無理もあるので想像の域をでないが、考えるだけで楽しい。玉川地区は記録が少なく、はっきりしない事が多いので想像するだけで歴史に興味湧いてくる。

尚、『名残の常盤記』は数十年前の某銀行自由が丘支店発行文書に依ると、地に潜んだ吉良残党の間で語り繋がれ、江戸時代に一つの説話文学として体系化されたようだ。文体は明らかに平家物語や古今集から借文し、はじめは琵琶の伴奏で語られ、寺院の開帳、鎮守の祭礼の場で演出され、初午の日などに五人組の頭などによる素読も行われたと云うことである。（赤松）



（目黒六村絵図（文化2年 [1805]；九品仏、大音寺、東光院の記載あり）



（左；奥沢中学校 右；大音寺に続く住宅）



# フラワーアレンジメント講習会報告 (名倉 裕貴子さん)

「緑の絵の具が使える町に」これは、私が小学生の時に区のコンクールへ出した作文のタイトルです。この作文を書いた30年前の当時、私の自室の窓から見える景色は大型トラックの走る山手通りと、建設中の高速道路。「おばあちゃんが一生懸命育てている屋上庭園も高速道路が完成したら、日陰になって元気がなくなっちゃうのかなあ？」なんて子供心に心配していたのを覚えています。

ふとそんな昔のことを思いながら息子と奥沢を散歩していた時に今回のチラシを見つけ、手軽にフラワーアレンジメントを体験できることと、会の名前に親近感を感じ、申込みをさせていただきました。会場のシェア奥沢は、山梨のおばあちゃんの家を思い出してしまうような温かい雰囲気のある古民家で、世話人の方のやさしい笑顔に迎えられて、初めて来た所とは思えない居心地のよさの中で講習会が始まりました。

テーブルにはキラキラのリボン、松ぼっくりや赤トウガラシなどリースの飾りに使用する植物がたくさん。先生が一つ一つ丁寧に説明して下さるたびに「あ、これも使いたい、あれも使いたい」と思ってしまい、各自のリース作りの際に「材料は全部使わなくてもいいですよ」と言われても使わないともっ

たいない気がして、結局もりもりのリースが完成しました。

全員が完成した後は、写真撮影と先生の総評。みんな同じ材料で作ったのに、ひとつひとつが全く違う作品になっていて、先生の総評を聞きながら「わあ〜、素敵ねえ」「リボンもいろいろな飾り方があるのね」とお互いの作品に感心しあうのもまた楽しい。

作品作りも、総評も、お土産のお菓子やお茶も、全てが大満足の楽しいフラワーアレンジメント講習会でした。帰宅後に玄関に飾られた手作りリースを「きれいだね♪」と毎日嬉しそうに眺めている息子も来年は3歳。ハサミも使えるようになっている頃なので、次回は是非、息子と一緒に参加させていただきたいと今から楽しみにしています。



(個別作品とグループ作品)

## 活動報告

- 1月19日東玉川小学校での開催された新春奥沢地区祭りに参加し、活動紹介の展示を行いました。北風の強い寒い日でしたが、関心をもって展示を見られる方も多く、またチェリーセージ等の苗や種は全部配布できました。
- 第3回地域風景資産の選定会議で選定が内定しました。当会が推薦し、選定を推進している地域風景資産は「鷺草伝説ゆかりの奥沢城址のある風景」です。3月1日の風景づくりフォーラム会議の授与式でお披露目されます。

## 会からのお知らせ

- 春のつどいは、3月16日(日)午後1時半から、シェア奥沢(堀内宅)で行います。今回は久しぶりに、会員や当会の活動を支援されている方々と、会活動の現状や将来について、お茶とお菓子を楽しみながら、自由な意見交換をしたいと思います。(詳細はチラシでご案内します。)
- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。

どうぞご協力をお願い致します。入会のご相談は下記へお寄せ下さい。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659

ホームページ: <http://tsuchimidori.net>

e-mail: [info@tsuchimidori.net](mailto:info@tsuchimidori.net)